

ネウストプニー先生がお亡くなりになったという知らせを聞いた。しばらく前からご体調が悪いということは聞いていたので、いずれはとは思っていたものの、残念でならない。

私がネウス先生（以下、こう呼ばせていただく）に初めてお目にかかったのは1993年に先生が阪大に来られたときだったと思う。

私の研究内容とネウス先生とはあまり接点はないように見えると思うが、私は研究上、ネウス先生からいろいろなことを教えていただき、それが今の私自身の研究に非常に役立っている。

ネウス先生は阪大に新しいことをいくつも持ち込まれた。「オフィス・アワー」もそうだし、演習のレジメを1週間前に配るというのもそうである。

今でこそ、1週間のうち特定の時間を決めて指導教員が面談をするというのはこの大学でも当たり前になり、オフィス・アワーを設けるのは義務という感じになっているが、今から20余年前の日本の文学部で「オフィス・アワー」を設けていた教員はほとんどいなかったのではないかと思う。

演習のレジメを1週間前に配るというのも非常に斬新な試みだったと思う。当時私は現代日本語学講座（現日）と日本語教育学講座（日教）の2つのゼミに出席していたが、現日のゼミでは、10枚以上レジメを用意してもほとんどの発表者は2, 3枚で終わってしまっていた。それはそれで、毎回の演習がある意味で「戦い」であって大いに役に立ったが、日教のネウス先生の方法はそうした当時の日本の大学院の「常識」とはかなり違って、それも大変勉強になった。実際、今私は自分のゼミで、この「ネウス方式」を採用しているが、そのことの効果は大きいと思っている。

研究に関してもネウス先生からいろいろなことを教えていただいた。

中でも「方法論が大切だ」ということは貴重な教えとして心に残っている。私の博士論文（くろしお出版のフロンティアシリーズの1冊として公刊）の半分は方法論について書いているが、これを書くことになった背景にはネウス先生からの影響も大きい。

また、参考文献の重要性ということも挙げられる。当時、「クロスリファレンス」ということは（少なくとも日本語学や日本語教育の文献では）ほぼ全く言われていなかったと思うが、ネウス先生は、論文の中に実際には読んでいないと思われる論文が挙げてあるときに、「こういうのは飾りなんですね」とよくおっしゃっていた（この「ね」はネウス風である）。また、文法の論文の最後に「この論文は日本語教育にも役に立つ」と書いてあると、「これは嘘なんですね」とおっしゃっていた。今、日本語／日本語教育研究会という小さな組織の代表として、投稿されてくる論文を年に数十本査読しているが、このネウス先生のことばが実感される。明らかに直接日本語教育のことを考えていないにもかかわらず、最後に「日本語教育の役にも立つ」などと書いてあると、それだけで不採用にしくなっ

てしまう。

クロスリファレンスについても、先日、日本語教育学会の倫理セミナーというところで、講師としてこのことについて話したが、改めて 20 年前にこのことを説かれていたニュース先生の先見性に脱帽する。

研究に関しては、「自然な (authentic) データ」をどうやってとるかということの重要性を教えていただいた。ニュース先生の演習はほとんどこのことをめぐって行われていたような印象がある。そして、それぐらいこのことは重要なのである。日本語教育で「調査」をする人のあまりにも多くがこのことを真剣に考えずに調査をし、その結果、使えないデータをとることになり、博士課程の時間を空費しているのを目にするにつけ、ニュース先生がおっしゃっていたことの意味が痛感される。

フォローアップ・インタビューもそうで、ニュース先生はよく、時間が経ってからフォローアップをすると、「聞かれた人は嘘を言うんですね」とおっしゃっていた。この場合の「嘘」というのは、「そのとき考えたはずのこと」ということである。それは、悪意からの「嘘」(虚言)ではないが、研究の役に立たないという点では五十歩百歩である。私は、学生の指導をするときや授業の際、しょっちゅうこのニュース先生の教えを学生に話している。

英語で論文を書くということの重要性もニュース先生に教えていただいた。私が初めて英語で論文を書いたのは『阪大日本語研究』のニュース先生の退官記念号であるが、これは私なりのニュース先生へのお礼の気持ちであった(ただ、英文のチェックをニュース先生にさせていただくことになり、ニュース先生にお手間と取らせることになったのは恐縮だった)。近年、私は大学の紀要に毎年 1 本言語学に関する自分の研究を英語で書くことにしている。それは、自分の研究、ひいては日本語学の研究を海外の人に知ってもらうにはそうするのが最善だからである。これはニュース先生からいただいた最大の学恩かもしれない。

ニュース先生のユーモアは独特のものがあり、どこまでが本気なのかわからないときもあったが、アルコールもカフェインもだめな先生にどんな飲み物がよいか伺ったとき、「泡の入った水の泡だけ飲みたいんですね」と言われたのは今でも記憶に残っている。

ニュース先生が阪大に来られるというときに、渋谷さんから、プラーグ学派のことを伺っておくように言われていたのに、私自身の力不足からそのことを果たせなかった。今から思えば残念なことをしたと思っている。

土岐先生に続き、ニュース先生も旅立たれてしまった。喪失感は大きいですが、お二人からいただいた学恩を次の世代に伝えていくことが私たちの使命だと考えている。

ニューズプニー先生、ありがとうございました。安らかにお休みください。